

リスクアセスメント & 作業手順書

工事名称	2024年度 東海北陸自動車道 高山管内維持修繕業務 雪氷対策作業		会社名	中日本ハイウェイ・メンテナンス名古屋(株)
工期	令和6年11月1日 ~ 令和7年4月30日		作成者	小瀬 裕之
作業名称	電気室除雪(ロータリー車を使用)		作成年月日	令和3年1月12日
使用機械 使用設備 (具体的な名称・ クラスを記す)	ロータリー		現場責任者	自車サイン
使用工具 機器 (大きさ・寸法等は 具体的な寸法を 記す)			元請確認	
保護具	ヘルメット、チョッキ、安全靴、手袋、警笛、黄旗		改正年月日	
免許・資格等 (技特(特)準特 の区別を記す)	大型免許、大型特殊		作業順序 1 事前調査 2 準備作業 3 基地を出発 4 除雪作業 5 基地へ帰着 6 後片付け 7 8	
作業人員 (当作業に関わる役 別と人員を全て記 す)	特殊運転手 1人、運転助手 1人 合計 2名			
作業手順 周知会 参加者 サイン (記録)	作業責任者(職長)	周知会実施日		

リスクの見積り	重大性			組み合わせ	リスクの評価	優先度又は実施担当者
	○:軽微 休業4日未満	△:重症 休業4日以上	×:極めて重大 死亡・障害を伴う			
可 能 性	○:めったに発生しない (5年に1回程度)	○○	○△	○○	1:極めて小さい	関係者に対策の周知
	△:時々発生する (1年に1回程度)	△○	△△	○△、△○	2:かなり小さい	関係者に対策の指示
	×:かなり発生する (6ヶ月に1回程度)	×○	×△	○×、△△、×△	3:中程度	職長が確認
				△×、×△	4:かなり大きい	工事担当責任者が確認
				××	5:極めて大きい	十分に訓練をした対策が必要

リスクレベル 5=十分に訓練をした対策が必要 4=工事担当責任者が確認 3=職長が確認 2=関係者に対策の指示 1=関係者に対策の周知

作業項目	内容	留意事項	危険性・有害性の洗い出し (予想されるミス・ロス)	可能性	重大性	評価点	リスクレベル	ミス・ロス	危険性・有害性の除去・低減のための実施すべき事項の特定 (防止対策)
事前調査(巡回)	主なステップ	作業のポイント							
準備作業	ミーティング	健康状態の確認 免許・資格等の確認							
	機械・道具の点検	日常点検により動作の確認							
	作業箇所の確認	雪氷本部で当日作業箇所と規制簿の確認							
基地を出発	雪氷本部へ作業開始連絡	健康状態の確認・免許・資格等の確認・光物(チョッキ・脚絆・ヘッドライト等)の充電確認・業務用ブレークの確認、入場方法・入場箇所・車両順番・役割分担の確認・車両の始業前点検、工具の確認、積み込み荷の確認(落下・飛散対策)荷締めの位置、荷台のネット・シート掛けの確認する。 工事車両がロープ及び養生テープで確実に固定されていることを確認。 担当者は施工計画段階でNEXCOと打合せした内容を作業員へ周知・報告すること。 車両出入庫の際に、運転手は車両の周囲(上下含む)を指差し、障害物が無い事を確認のうえ、出入庫する。	路肩へ流入する時に、急に減速したため、後方についていた一般車両が追突する。	△	×	△	4	路肩に流入する時は、ハザードを点灯した後、急にスピードを落とさず、徐々にスピードを落とす。	
除雪作業	① 作業箇所へ移動	作業現場300m手前についたらハザードで注意喚起を行い、路肩へ流入する。	雪を飛ばす時に、シュートの操作を誤り通行車両に雪が当たる。	△	×	△	4	雪を飛ばす前にシュートを操作し飛ばす方向にセッティングしておく。	
	② 除雪作業	構造物や排雪方向を現地で確認した後、作業を開始する。	路肩へ流入する時に、急に減速したため、後方についていた一般車両が追突する。	△	×	△	4	雪を飛ばす前にシュートを操作し飛ばす方向にセッティングしておく。	
	③ 現場離脱	除雪作業が確認したら、構造物の損傷等がないか現地を確認してから離脱する。	路肩から流出する時に、通行車両の接近に気づかず、接触する。	△	×	△	4	本線に近い箇所を除雪する時は、通行車両が通る時は作業を一旦止める。 雪が転がったのを確認した時は速やかに雪を撤去する。	
基地へ帰着	雪氷本部へ作業終了連絡をする。	作業現場300m手前についたらハザードで注意喚起を行い、路肩へ流入する。	路肩から流出する時に、通行車両の接近に気づかず、接触する。	△	×	△	4	運転手・助手で後方確認を自視にて行い、通行車両の切れ間で路肩から流出する。	
後片付け	洗車・給油を行い車両を片付ける	作業現場300m手前についたらハザードで注意喚起を行い、路肩へ流入する。	路肩から流出する時に、通行車両の接近に気づかず、接触する。	△	×	△	4	運転手・助手で後方確認を自視にて行い、通行車両の切れ間で路肩から流出する。	
		車両に異常や破損等がないか確認し、発見されたときは速やかに雪氷本部へ連絡する。							工事車両等を取外した場合は専用のケースに確実に格納し車内に保管する事